

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

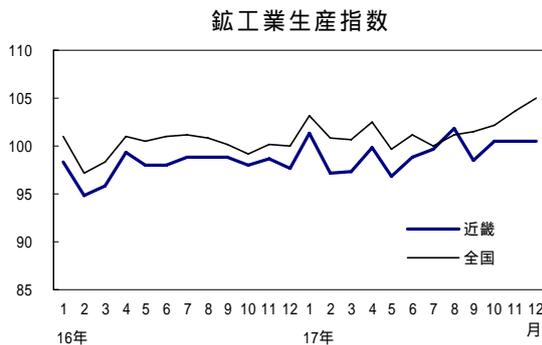
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 11 月)	今回 (平成 18 年 2 月)	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、蒸気ガスタービン、ショベル系掘削機械などが好調に推移しているものの、一部製品の他地域への生産移管の影響により減少している。化学は、化粧品、触媒などにより減少している。電気機械は、エアコンが好調に推移したことから増加している。食料品・たばこは、清涼飲料水が振るわなかったことから減少している。電子部品・デバイス、携帯電話や携帯音楽プレイヤー向けのアクティブ型液晶素子(中・小型)が好調であったことから増加しており、4四半期連続の増加となっている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	15.0	3.0	2.8	2.5	9.1
化学	12.8	3.7	2.4	0.0	1.8
電気機械	10.1	2.6	1.7	3.3	2.0
食料品・たばこ	8.1	1.1	3.4	1.8	4.3
電子部品・デバイス	7.9	12.0	3.5	6.5	10.7
鉱工業	100.0	1.5	0.5	1.1	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

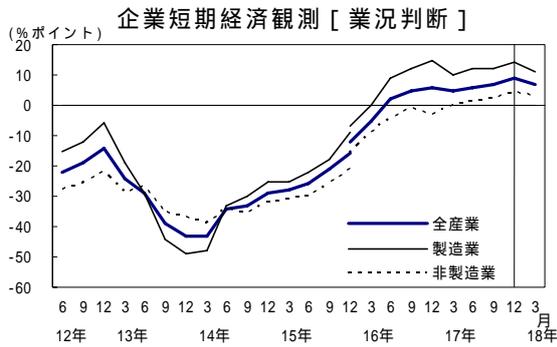
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

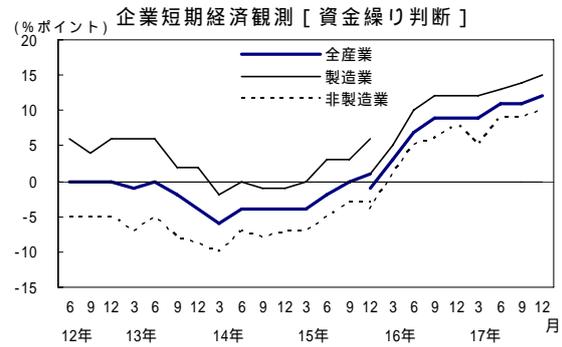
2. 平成17年12月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

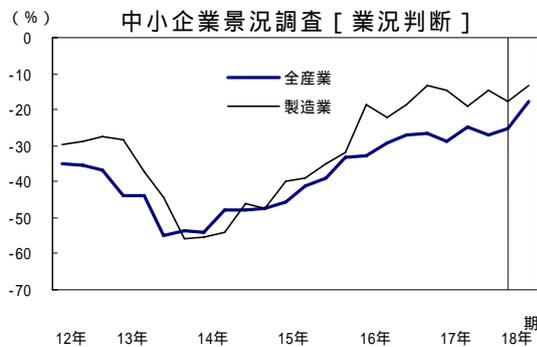
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

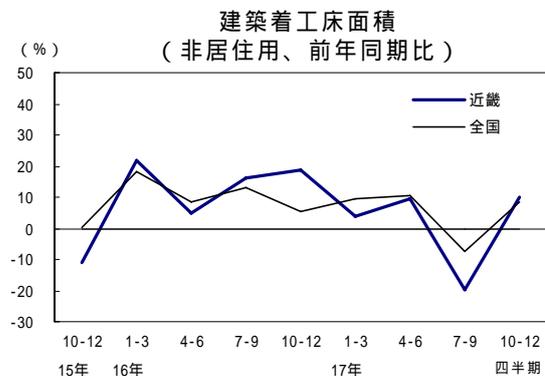
「大企業から中小企業まで、明るいニュースが聞かれる。防災セキュリティへの投資が増えており、製造の周辺にも気を遣うようになってきた(電気機械器具製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	2.9	11.6(1.8)
製造業	5.3	16.0(1.7)
非製造業	1.0	7.9(1.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している

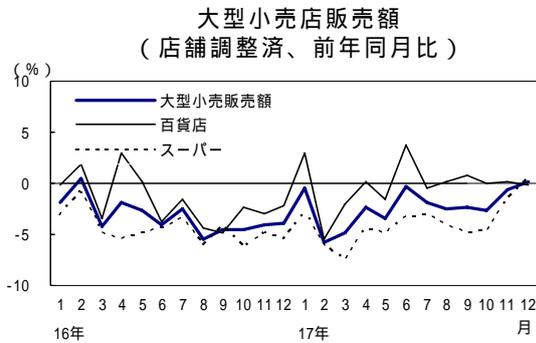
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、スーツなどの重衣料が振るわなかったことものの、前月からの在阪球団の優勝関連セールや一部店舗の改装などの効果もみられ、前年を上回った。11月は、寒波の影響でコート、スーツ、ジャケットなどの衣料品、マフラー、手袋などの身の回り品、時計、宝石・貴金属なども好調に推移し、前年を上回った。12月は、引き続き寒波の影響により防寒用の衣料品の他、時計、宝石・貴金属が好調に推移したが、歳暮の早期受注の反動などもあり、前年を下回った。一部店舗の売場面積縮小などの影響がみられるものの、3期四半期連続で前年水準に達している。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の1月の売上高は、前年同月比で2.6%減となっている。

スーパーでは、四半期を通じて主力となる飲食料品が米や野菜の価格低下などの影響はあったものの、寒波の影響によりコートなどの防寒衣料が好調だったことから、全体としては前年を下回ってはいるものの減少幅は縮小している。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

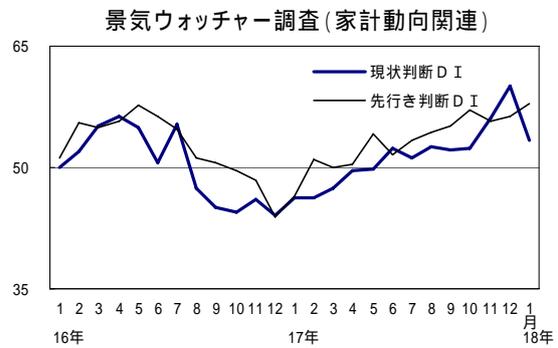
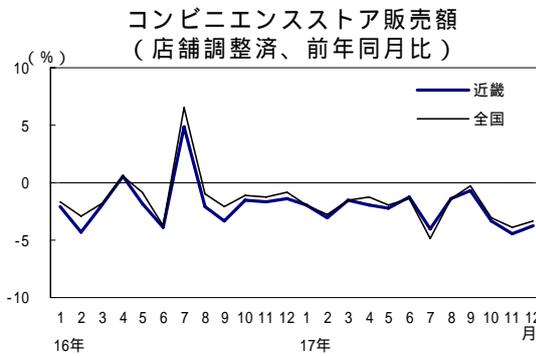
「バーゲンセールの開始当初は良かったが、その後長続きしないまま売上が減少する傾向にある。これは商品の仕入不足や客の購買意欲の低下によるものである(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.6	2.0	2.2	1.0
百貨店	1.3	0.8	0.1	0.0
スーパー	5.4	4.2	4.0	1.8
コンビニ	2.1	1.7	2.1	3.8
景気ウォッチャー	46.7	50.6	52.0	56.2

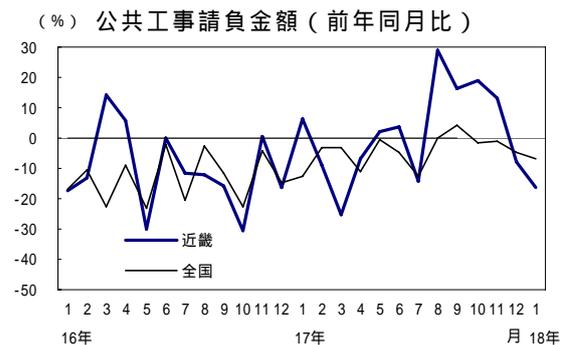
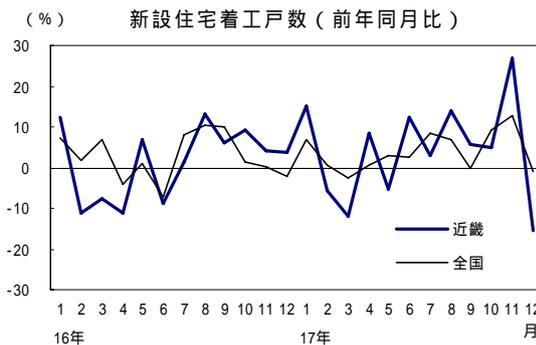
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

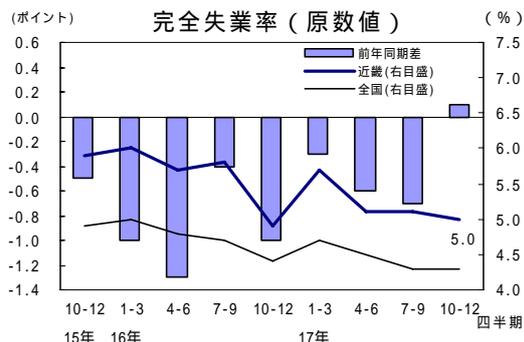
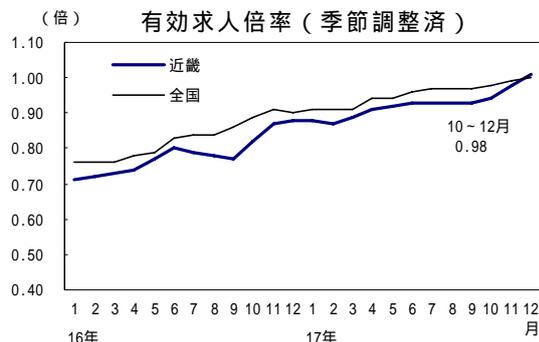


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

「ほぼすべての業種で求人数が前年比で増加しており、積極的な企業活動が続いている。ただし、パートや派遣、請負など増加率が正規雇用の増加率よりも大きい(職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

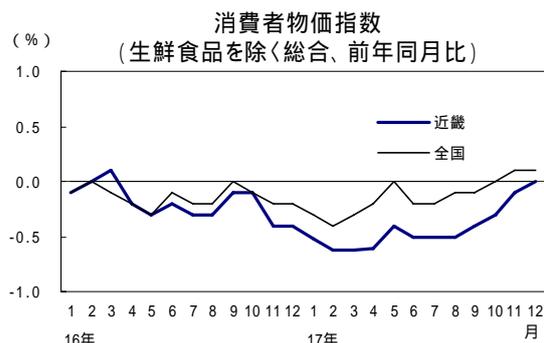
(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が大幅に増加している。

企業倒産は、1月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	751	802	866	1,083	310
(前年比)	18.7	3.0	3.1	32.9	29.2
負債総額	6,186	4,086	3,598	3,194	1,665
(前年比)	1.9	46.0	5.2	47.9	1.8



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・神戸空港の開港記念商品の販売状況が予想以上に好調である。海外旅行も先行受注状況が昨年と比べて10%程度良くなっている(旅行代理店)。

<先行き>

・エリアによる格差はあるものの、梅田や郊外のターミナル駅前のテナント賃料が持ち直していることから、収益ビル事業においても投資に追い風が吹いている(建設業)。

景気ウォッチャー調査 (合計)

